

令和 6 年気仙沼市東日本大震災追悼と防災のつどいが開催されました（2024/3/11）

テーマ：震災伝承×情報配信・伝達

会場：気仙沼中央公民館（宮城県気仙沼市）

URL：<https://www.kesenuma.miyagi.jp/sec/s009/031/20240214160812.html>

2024 年 3 月 11 日（月）、気仙沼中央公民館において、「令和 6 年気仙沼市東日本大震災追悼と防災のつどい」が開催されました。気仙沼市では、それまで行っていた追悼式から、2022 年より当研究所が共催となり、「追悼と防災のつどい」ということで、基調講演や事例発表の要素も盛り込まれており、東日本大震災で亡くなられた方の追悼と防災について学ぶ場となっています。

今回防災のつどいは、『震災伝承』×『情報配信・伝達』をテーマに、基調講演、取組発表、トークセッションの 3 部構成で行われました。はじめに、気象予報士の井田寛子氏から「近年の異常気象と気候変動～災害に備えるために～」の演題で基調講演いただき、取組発表ではリアス・アーク美術館館長の山内宏泰氏より「気仙沼市における東日本大震災の伝承活動について」お話しいただきました。トークセッションでは、佐藤翔輔准教授（防災社会推進分野）がモデレーターを務め、井田氏、LINE ヤフー株式会社の栗栖典夫三氏、気仙沼市自主防災組織連絡協議会の大原忠次氏の三者をスピーカーに招き、「避難情報を正しく読み取る」をテーマに活発な意見交換が行われました。その中で、防災を考える・学ぶうえで、「誰もが自分事として取り組む」「もっと楽しく防災を知る」という、防災をより身近に感じられる環境づくりが大事であること等が今後の課題として挙げられました。また、展示ブースでは、当研究所の取組として、2011 年東日本大震災での津波伝播、2022 年トンガ火山噴火による津波、2024 年能登半島地震による津波の CG アニメーションを展示し、訪れた方からは「逃げる」という事がいかに大事かわかった等、災害時の行動について再認識する機会になったとお話しいただきました。

当日は、献花には市内外から 1200 名の方が、防災のつどいには約 300 名の方が参加し盛会のうちに終わりました。防災のつどいの様子は、YouTube にてアーカイブ視聴ができます。ぜひご覧ください（<https://www.youtube.com/watch?v=Vii17VDsueg>）。

文責：江畑 由紀（気仙沼分室スタッフ）
担当教員：佐藤 翔輔（防災社会推進分野）

（次頁へつづく）



展示ブースの様子①



展示ブースの様子②



基調講演
 気象予報士 井田 寛子 氏



震災伝承の取組発表
 リアス・アーク美術館館長
 山内 宏泰 氏



トークディスカッションの様子①



トークディスカッションの様子②
 佐藤 翔輔 准教授



トークディスカッションの様子③
 LINE ヤフー株式会社
 栗栖 典夫三 氏



トークディスカッションの様子④
 気仙沼市自主防災組織連絡協議会
 大原 忠次 氏